

三島駅南口再開発

コロナ禍で推進 批判の声

新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、三島市が進めるJR三島駅南口東街区の再開発事業について、市民や市議らから「進め方が拙速」と批判が出ている。市は「疲弊した経済の立て直しが必要」と二〇二五年に完成の方針を変えないためだ。市民からは、事業資金をコロナ対策にあてるなどの見直しや、丁寧な説明を求める声が強まっている。

(杉原雄介)



三島市が再開発を予定するJR三島駅南口東街区。現在は駐車場として暫定利用されている＝同市一番町で

三島駅南口東街区再開発事業 業 1・3畝の敷地に、300戸ほどが入る高さ約90層の高層マンションや100〜200室のホテル、商業施設などからなる複合施設を造る。事業費は211億円で、うち市の負担は約56億円。残りは国や県の補助金、民間事業者の負担とされる。

新型「コロナ」

コロナ感染拡大の影響で、公共工事の予定見直し相次いでいる。県内も県や静岡市などが、大型事業の凍結や見直しを決めた。一方、三島市は、土地の使い方や建物の規模などを決める都市計画決定の時期を、当初予定の七月から十一月に遅らせたが、その後の手続きはスケジュールを調整し「完成は二五年のまゝ」としている。

事業内容の再検討を訴えるのは石井真人市議(新政会)。東街区には診療所やスポーツジムなどを集約した「広域健康医療拠点」の設置も計画されているが、「コロナが広がる中、人が密集する駅前に医療拠点を設けるのはおかしい」と疑問を呈する。また「まずコロナ対策を優先すべきだ。再開発事業の採算も計算し直す必要がある」と指摘する。

三島市の担当者は「公共交通で行きやすく、利便性が高

市民ら「事業見直し感染症対策を」



い場所がふさわしい」と駅前に拠点施設を設ける理由を語る。施設の機能は「市民が密集しない仕組みを考える。二五年にはコロナが終息している可能性もあるので、医師会や事業者とも相談して決めた」としている。

一帯の都市計画決定について、市民からは「説明不足だ」との声もある。市は、密集を避けるためとして大規模な説明会を中止。六月中旬に市ホームページ(HP)上で、豊岡武土市長が計画の原案を説明する約五十五分の動画や事業概要の資料を公開した。資料は市役所や公民館などでも配布し、質問は郵送やファクスで受ける形とした。

六月下旬には、HPを見られない市民向けの説明会を開いたが、参加者は七人止ま

市側 経済再建へ方針変えず

り。HPで公開している動画を流すのみで、質疑応答の時間はなかった。参加した七十代男性は「七人だけで『説明会をやった』というのは市民をなめている。コロナが終息してから市長が市民の前に出て説明してほしい」と憤る。

一方、事業見直しを訴えるNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」が今月開いた勉強会には、オンラインも活用し約八十人が参加。「市はコロナ対策を最優先にして」「かなりの経済的打撃を受け、本当に再開発ができるのか」といった意見が出た。

GW三島の渡辺博専務理事(中)は「市街地の店もつぶれるのに、市はホテルや商業施設の採算性を示さないまま、強引に手続きを進めている」と批判。事業見直しを市に求める署名活動を始めるという「八月中旬に一万人以上を集めたい」とする。

こうした動きに豊岡市長は「感染予防と社会経済活動の両立は国の方針でもある。コロナで疲弊した経済を立て直すには移住定住を促進し、雇用を創出することが大切」と話した。

都市計画決定について二十七日、三島市文教町の市民体育館で公聴会があり、市民や事業の利害関係者らが意見を述べる。傍聴の募集は終了している。